

毎日ワクワク 沖縄体験

カーヨ君、県内で交流プログラム



参加者と会場で記念写真に納まる
キビドー・カーヨ君(右) 〓 沖縄

や社会、移民、自然、歴史、
伝統芸術・芸能体験、ウチナ
インチュアイデンティティ
などを学習した。

エイサーやキャンプファイ
ア、藍染め、カヌーなども体
験し、那覇市の平和通りも散
策した。参加者間の言語は日
本語が主で、海外からの参加
者はプログラム期間中に「か
るた」でひらがなも習得した。

カーヨ君は、名護市に住む
叔母の島袋美幸さん宅にホー
ムステイ。親戚と一緒に琉球
村やネオパークオキナワ、美
ら海水族館などを見学したほ
か、祖母の佐久川和子さん(読
谷村)に回転すしなども案内
してもらい、カーヨ君には毎
日がワクワクの初めての経
験となったようだ。

「平和の礎を訪問したとき、
戦争の犠牲者の数に驚き、戦
争はあつてはいけないと感じ
た。ビギンの『島んちゆめ室』
も歌える。創作エイサーも楽

しかった。親戚や沖縄からの
参加者、関係者が空港まで見
送りにきて、その数に感激。
初めて会うのに、自分を家族
の一員として親切にしてくれ
たメンバーと別れたくない気
持ちで涙が出た」と話すカー
ヨ君。

帰国後は、沖縄で知り合っ
た友達とフェイスブックで毎
日、日本語で連絡していると
いう。

母の佐久川さゆりさんは
「カーヨは沖縄での多くの人
々との交流で、貴重な体験を
させてもらった。皆さんに感
謝している。今回のプログラ
ムで大きく成長した。伝統工
芸にも興味を持ち始めた。こ
れから先、彼の人生でウチナ
インチュアイデンティティ
が彼の心を強く支えてくれる
でしょう」とうれしそうに話
していた。

④ 米・アトランタ

【ルイス高江洲佳代子通信

員】海外の沖縄系組織の次世
代のリーダー育成、世界のウ
チナーネットワークの構築と
レベルアップを目的に、沖縄
県が主催する生徒たちの交流

プログラムに、アトランタ沖
縄人会員子弟のキビドー・
カーヨ君(16)が、7月28日か
ら8月12日まで参加した。

今年は海外8カ国から16人
と県内から16人の計32人が、
浦添市のJICA沖縄国際セ
ンターと金武町の金武ネイチ
ヤーみらい館を中心に、平和

ワ
ー
ル
ド
通
信
ネ
ッ
ト